



左から消防第1係主査の辰己さん・消防署員の田島さんと竹俣さん

図書館のご近所さん

大宮消防署の巻

図書館のお隣でいつも私たち市民の安心と安全を守ってくれている、さいたま市消防局大宮消防署氷川参道出張所の方々に話を聞きました。

「緊急時の仕事内容を教えてください」

1つ目は、火災現場での消火活動です。消防ポンプ車で燃えている場所・物を高圧の水や泡で消火します。

2つ目は、救急活動です。病気やケガの人を迅速に病院に送り届けます。特に生命に危険がある人には、救急救命士が医師と連絡を取りながら救命処置を行います。

他にも、救助活動があります。火災で逃げ遅れた人や、川や池で溺れた人、車や建物などに閉じ込められた人を救出します。



Vol.011
2022年6月1日発行
OMIYA LIBRARY

ある日のお仕事	
8:30	出勤→車両・資機材の点検
8:58	①災害出場
12:00	昼休憩→ミーティング
14:00	訓練
14:33	②災害出場
15:50	訓練
17:15	夕休憩
18:24	③災害出場
23:38	④災害出場
0:15	仮眠→受付→仮眠
6:05	起床
7:00	清掃
8:30	交代→勤務終了

この間にも届け出の受付や火災の原因調査、災害の報告書作成などの事務処理とやることはいっぱい！

「緊急時以外はなにをしていますか」

災害に備えて訓練をしています。また、火災予防のために学校やデパートなどに立ち寄り、消火設備や避難設備などの検査を定期的に行っています。さらに、それらの施設で防火についてのお話や、消火器が効果的に使えるように指導しています。出場するたびに報告書の作成や火災原因に係わる調査書類の作成もしています。

「訓練とはどのようなものですか」

消防隊はホースを伸ばし放水する訓練を中心に実施し、その他に配備資機材（三連はしごなど）を使用した救出訓練をしています。

救急隊は救急器材の取扱訓練などを行っています。すべての隊に言えますがさまざまな災害を想定しての動きや、各隊との連携も訓練しています。

「忙しい時期はありますか」

火災は空気が乾燥し始める秋から冬に件数が増えます。救急は、7月9月の熱中症が増える夏や、空気が乾燥し感染症が流行する冬に忙しくなる傾向があります。

「氷川参道出張所には何名の方が働いていますか」

総員は34名です。各隊が2係に分かれて勤務しており、毎日10人前後が働いています。

「なぜ、消防士になろうと思ったのでしょうか」

辰己さん 幼少のころに火災現場で活躍している消防士を見て憧れ、消防職員になる決意をしました。

田島さん 学生時代からスポーツをしていて、将来も体力を活かしてやりがいも感じられるこの仕事をしたいと思いました。

竹俣さん 身体を動かすことが好きで、且つ人の役に立つ仕事に就きたくて選びました。

「大変だったこと、よかったことは？」

辰己さん 病院に搬送した方が後日元気な笑顔で来所して、感謝を述べてくださったことがありますが、そんな時はとても嬉しい気分になりますね。

この仕事をしていてよかったと思います。

田島さん 24時間勤務です。夜中や仮眠中であつても出場しなければいけないこと。あとは、出場時はこの服の上には防火服を着て更に空気ボンベを背負い、建物に入る時にはマスクを装着します。真夏は特に辛いです。消防であっても、救急に支援をすることがありますが、心肺停止状態の方に心臓マッサージをして回復されたことがあります。

竹俣さん 現場は大変です。女性でも同じように出陣します。私たちの仕事は人の不幸の上に成り立っているところがあるのですが、その中で、被害を最小限に抑えて助けることができたときは嬉しです。



消防署の奥には大宮区役所・大宮図書館が顔を覗かせます。

「最後におすすめの図書を教えてください」

辰己さん 『人は話し方が9割』 永松茂久／著
すばる舎 2019

普段のコミュニケーションとしての話し方・聞き方が大事であると考えさせられ、即実践できるテクニックが書かれています。

竹俣さん 『風と共に去りぬ』 マーガレット・ミッチェル／著
主人公の強く逞しく常に前向きな生き方が好きです。

田島さん 『勝つ続ける意志』 梅原大吾／著
小学館 2012

著者は日本人で初めてのプロ格闘ゲームマニアとなった梅原さんです。自伝を交えて、ゲームや仕事に対する考え方・勝ち続けるために必要なこと、経験に基づいた人生における考え方などが記されており、おすすめの1冊です。

「ありがとうございます！」



くらコン!

みなさんが最近ふしぎに思っていることは何ですか？

疑問を感じたことや興味を持ったことについて、図書館を使って調べる方も多いでしょう。そんな方の発表の場として「図書館を使った調べる学習コンクール」があります。参加者は小学生から大人まで。昨年度の応募総数はなんと10万6千点以上!『早くして!』のヒミツをときあかせ! (小学2年生)、『ゆうびんポストはなぜ赤い?』(小学3年生)など、興味をそられる作品が全国からたくさん集まりました。

調べるテーマや参考文献は人それぞれです。調べ物のお手伝い(レファレンス)は、いつでも受け付けています。

今年の夏は、図書館で知的好奇心を満たしてみたいかがでしょうか。

コンクールの詳細はこちら!
<https://www.toshokan.or.jp/>
(公益財団法人 図書館振興財団HP)

大西民子の一首

焼け跡に水道栓はしぶきあつ

艦砲射撃のかの日のごさく

『光たばねて』より

水道栓から水がしぶきをあげて出ている光景を見た民子は、艦砲射撃を受けた岩手県釜石の釜石を思い出します。製鉄所のあつた釜石は、艦砲射撃に2回におよぶ艦砲射撃を受け壊滅状態になりました。当時市内で教員をしていた民子は、生徒を連れて遠野へ疎開し、そこで終戦を迎えます。

ゆかりの文学コーナー

～井伏鱒二の「普門院さん」～

「普門院さん」では、作者の知り合いらしい「私」が奇妙なまじかたで或る邸の庭先に入り込み、道山和尚と老人の会話を聞いてしまいます。老人は、若いころ新政府側に属し小栗を斬首した本人でした。共に念仏を唱える2人を見て、「私」は思ひがけなく飛び込んだ歴史の1ページを見届けたような気持ちで立ち去るのです。

小栗の生涯や幕末・明治の混乱を思いながら読むと、和尚の憤りや老人のやるせない思いがより強く伝わってきます。また「私」が目撃した「過去」と、門の外に出た時の「現在」とのコントラストが一層際立ちます。

後に井伏は新しい資料によって「普門院の和尚さん」という小説を発表しています。こちらには「私」は出てこず、作者が老人と和尚を直接見つけているようです。読み比べてみるのも一興です。

取り扱った本

- 「普門院さん」 第四巻 増補版 井伏鱒二著／筑摩書房／1974 年より
- 「井伏鱒二全集」 第四巻 増補版 井伏鱒二著／講談社／1995 年より
- 「普門院の和尚さん」 井伏鱒二著／講談社／1995 年より
- 「神皇正統の残した日記」 井伏鱒二著／講談社／1995 年より
- 「井伏鱒二の横顔」 河盛好蔵／編／弥生書房／1993 年
- 「小栗上野介をめぐる秘話」 河野正男／著／群馬出版センター／2003 年
- 「小栗上野介」 忘れられた悲劇の幕臣 村上泰賢／平凡社／2010 年

普門院は大宮駅西口から徒歩15分ほどの所にある曹洞宗のお寺です。このお寺は幕末の幕臣・小栗上野介忠順(おぐりこうすけ)のすけたたまさご縁があり、大政奉還後に小栗が群馬の権田村へ移り住む際に立ち寄りつづけているようです。小栗はそれからまもなく群馬で斬首され、長く逆賊として扱われていました。小栗の功績を知ってもらおうと、普門院四十二世・阿部道山(あべどうざん)和尚が「小栗上野介正伝」を著したのが1941年。その和尚の甥と井伏が戦友で、その著書を買ってもらったのがきっかけとなり、井伏は1949年に「普門院さん」を発表しました。

サムライとアメリカ人



参考文献
『ペリー提督日本遠征記』上下巻
M・C・ペリー／著 KADOKAWA 2014
『南浦書信』—ペリー来航と浦賀奉行戸田伊豆守氏
栄の書簡集—
浦賀近世史研究会／監修 未来社 2002

1853年7月(嘉永6年6月)、アメリカのペリー提督率いる4隻の黒船が浦賀沖(神奈川県横浜須賀野)に投錨しました。鎖国中の日本と国交を開くのが目的です。一般的には「威嚇によって開国させた」と言われていますが、本当はペリー側も必死でした。航海記によれば、来日前のペリーは日本の地理・歴史・自然・文化などあらゆる分野を徹底的に調査しています。遠い未知の国との交渉は彼らにとっても命がけだったのです。

「最高位の役人と交渉する」というペリーの希望を受け艦上に向かったのは、浦賀奉行を名乗る香山栄左衛門。実はたまたまの力でした。本物の浦賀奉行が逃げたのではなく、西洋砲術を学ぶ外国船との交渉経験がある香山が抜擢されたのです。この交渉は成功で、香山は「優雅で礼儀正しく、愛想がいいが威厳がある」とアメリカ側の信頼を勝ち得ます。

なんと、か黒船を長崎へ追いやりたい日本側と、あくまで江戸近辺で大統領の親書を渡し、アメリカ側。緊迫の押し問答が数日続きました。とうとう、ようやく久里浜(横須賀市)で大統領親書の受け渡しが行われました。当日、警護に駆り出された川越藩士たちは、アメリカ人の笑顔を嘲笑うと思いつつ「斬つてやる!」と悔しがったと言います。……これが、日本が国際社会の一員となる最初の一步でした。

黒船が日本を去る日、ペリーは香山たちを艦上に招いて共にシャンパンを飲み、語りました。別れ際、小舟に移った香山はワインのボトルを高く掲げ、一同の無事を祈ったとペリーの航海記にあります。刀も銃も抜くことなく事態を乗り越えた彼らは、お互いが人間同士であることを深く理解していたのです。

なにをかって、まいばんきつと、いってやるんだ。
「ずーっと、ずーっと、だいすきだよ」って

ずーっと ずーっと だいすきだよ



私の家には犬、猫、亀と一緒に暮らしています。どの子も大変すばらしく、家族の一員として愛と楽しい日々を与えてくれます。

今いる動物たちが我が家に来る前、一頭の犬を飼っていました。名前はドン。雑種です。体の大きな子で、まだ小学生だった私は、よく散歩で引っ張られていました。ところが私は、年を重ねていくうちにドンに関心を示すことが少なくなりました。散歩や頭を撫でることも減っていった頃、ある日ドンが突然具合を悪くし、獣医さんから「もう長くない」の一言。その時初めて、「いつもいるのが当たり前」だと思っていた存在がいなくなる、という現実を突きつけられ衝撃を受けたのを覚えています。

ドンを見送った後、私は一晩中泣いて「もっといっぱい遊んであげればよかった」「もっと散歩に連れて行けばよかった」「もっと…」とドンの思い出よりも後悔の方が大きかったです。子どもだったとはいえ、愛情深く接してあげることが出来なかった自分を強く恥じました。この絵本を読んだとき、ドンのことが頭に浮かんで涙が止まりませんでした。「ずーっとだいすきだよ」という気持ちで共に過ごすことが大切だと身に刻みましました。

今我が家にいる子たちにはいつも「ずーっと、だいすきだよ!」の言葉をかけています。そして、心の中にいるドンにも。



紹介した本
『ずーっと ずーっと だいすきだよ』
ハンス・ウィルヘルム／えとぶん
久山太市／やく 評論社 1988



大宮図書館
ホームページ

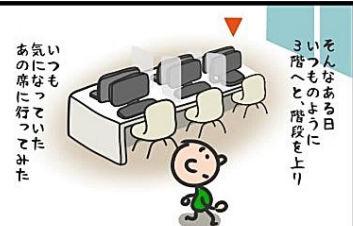


大宮図書館
twitter

twitterではイベントやスタディーコーナーの
待ち人数など大宮図書館の情報を日々つぶやいて
います。ぜひ、フォローしてみてくださいね!

この刊行物の書影画像はBOOKデータASPから引用しています。

あの席は

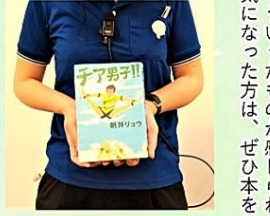
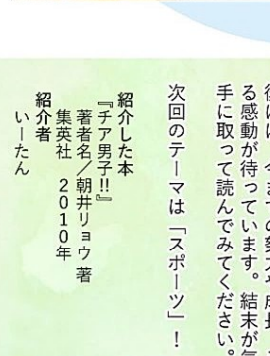


中山道からさいたまスーパー
アリーナを結ぶほこすぎ橋まで
ケヤキ並木が400m続く場所が
あります。1964年、3年後の埼玉
国体の為に植えられたこのケ
ヤキは、春になると若葉とともに
うすい黄緑色の小さな花を咲か
せ、夏は見上げると濃い緑色、
地面を見れば木漏れ日が気持ち
よく、秋になると紅葉も楽しめます。
ほうき状の枝ぶりは葉を落
とした後も存在感があり、四季
の変化を楽しむことができます。

ケヤキは県内に古くから自生
していたことから埼玉県の木・
さいたま市の木に制定されていま
す。



並木と交差するほこすぎ橋
は、氷川参道が明治から大正
初期に杉の緑道であったため
「銚杉」の名前がつけました。
散歩やサイクリング・鉄道ウ
ォッシングに最適な場所です
が、夜のライトアップもオス
メです。



今回のテーマは「スポーツ」!
紹介した本
『チア男子!!』
著者名/朝井リョウ 著
集英社 2010年
紹介者
いたん

私自身も学生時代、運動部に所属していました。毎日泥だらけになりながら、全国大会出場を目標に、雨の日も雪の日も天候に関係なく練習する日々。主人公たちと重なる部分が多く、物語を読み終えた後「あんな時もあんな」と、学生時代を思い出し懐かしさを感じました。

この小説を読んだきっかけは、映画でした。原作も気になり手に取って読み進めていったところ、「頑張れ!」と勝手に主人公たちを応援していました。また「自分も日々頑張ろう!」と元気をもらいました。主人公たちと年齢が近い方は、共感できると思うかもしれません。大人のの方は「青春だな」と、終始爽やかな情景を思い浮かべながら読むことができるのではないのでしょうか。物語の最後には、今までの努力や成長、そういつたものが感じられる感動が待っています。結末が気に入った方は、ぜひ本を手にとって読んでみてください。

海みたいなゼリーって どんな味がするんだろう。

子供の頃に繰り返し読んだ本のなかにそれは登場する。大きな透明ボールいっぱい青と緑の混ざり合った砂糖と塩を入れ間違えた手作りゼリー。じんじんしょっぱいその海を食べたら夏が終わってしまうのだ。

我が家でも昔クリスマスケーキに間違えて塩を入れて焼き上げてしまい、最終的に父に押し付けられた記憶があるのでとても食べられたものではないことはわかる。

せっかくなので自分で作ってみることにした。食べ物に粗末にしたいわけではないのできれいなものを目標にしたい。原作ではミントとリキュールを使っているが、子供舌なので他の素材を探す。うーん意外と飲み物って売っていないんだ。海なら県民である自分の一歩身近な海といえば真っ青というよりどす黒い東京湾だが、さすがにあの色を出すには墨汁でも混ぜるしか方法がない。



何件か目の店でやっといかにも身体に悪そうなジュースや練っていくと色が変わる駄菓子を見つけてゼラチンで固める。さて完成度は・・・? タイトルの『サマータイム』はジャズのスタンダードナンバーで、大きくなってから初めて聞いて、少し物悲しい響きに甘いだけではない味わいを感じた。この曲と共に食してみたい。

紹介した本
『サマータイム』
佐藤多佳子/著 新潮社 2003



第7回 テーマ
「爽やか」